

二兎を追うものは…

前号に引き続き、子育てに役立つ話題を取上げてみます。皆さん、「二兎を追う者は、一兎も得ず」ということわざを知っていますか。同時に二つのことをしようとする、どちらとも失敗するという意味です。

診療場面では、時に二匹のウサギに出くわします。例えば、「葉を飲まないけど咳を止めたい」、「牛乳を飲ませながら下痢が止まらない」、「熱があるけど風呂に入れていいか」などです。「葉を飲まない」と咳を止めたい、「牛乳を飲みたい」と下痢を止めたい、「牛乳があることと風呂に入りたい」が、二匹のウサギということになります。

「二兎を追うもの…」は、どこから来るのでしょうか。知識や認識が足りないということが原因ですが、本来は親から子へと世代間伝達されるものがなかったことも原因のひとつでしょう。自分も母親から、「下痢の時には牛乳は飲まないように。消化の良いもの、特にお粥がいい。」と言われ、また「熱があったら、お風呂には入らないこと」と教えられました。また、子どものわがままを受け入

れ過ぎることも、原因の一つでしょう。苦いから葉を飲みたくない、「牛乳を飲みたい」と泣く、「熱があつてもお風呂に入りたいと騒ぐ」となれば、可愛そうと思つて受け入れることもあるかもしれません。「熱があるのに幼稚園に行きたいというけど、どうしたらいいでしょうか」も同じです。なかには水痘などの伝染性疾患なのに卒園式に出席してほしい、症状が重く来院日を指定してほしい、仕事で来れない」と言う親もいます。これも同じですが、子どもではなく親のわがままです。確かに様々な事情があるとは思いますが、他人への迷惑を考えれば、どちらが優先されるかは明らかです。いくつか問題点がある場合、どれを優先して解決するかということとはとても大切なことなのです。

もちろん、葉を飲まなくてもいいし、牛乳を飲ませても、お風呂に入れることを選択するのは自由です。ただし、その場合子どもに悪影響がでる可能性を認識することが必要なのです。そして大事なことは、母親として後悔しないということです。厳し

い言い方ですが、親としての責任がとれるなら、判断は自由なのです。咳が止らなくても、下痢も治らなくても、風呂に入ったたり幼稚園に行ったりして具合が悪くなっても、仕方ないと思えば問題はありませぬ。しかし、普通のお母さんは、咳や下痢を止めたいし、子どもの具合を良くしたいし、後悔はしたくないはずで、熱があるのにお風呂に入れて、ひきつけでも起こすようでは大変です。常識を無視して子どもの健康に被害が及ぶようであれば、虐待と言われても仕方がないことです。出席停止の感染性疾患感染症にかかわらず登園させることは論外で、このように育てられた子どもの将来は本当に心配です。

育児ではわがままへの対応は、とても大切なことなのです。少子化影響もあり、子どもは大切に育てられています。大切にすること、わがままを許すということは違います。年齢によって、わがままへの対応は変わってきますが、子どもに悪影響を及ぼす場合には我慢をさせることが重要なのです。

小児科専門医

川村和久

【かわむら・かずひさ】仙台市在住
医療法人社団かわむらこどもクリニック院長。日本一の小児科サイトを運営する、言わずと知れた小児科専門医。「お母さん達の心配・不安の解消」を理念に、日々の診療にあたっている。宮城県小児科医会理事。2001年には医師として大変名誉のある日本小児科学会パネリストとして選ばれる。
*2008年4月号「ひよこクラブ」
「小さく生まれた赤ちゃん5人のすくすく成長日記」のコーナーを監修し、疑問や悩みに答えるとともにメッセージを掲載。
<http://www.kodomo-clinic.or.jp/>



どうしても二兎を追うのであれば、片方がだめでも後悔はしないという意識が必要で、状況に応じて優先順位をつけ、何が大切なかを見極めることが必要です。二兎を追うもの…は、同時に二つのことを達成できないという意味を、この際もう一度考えてみましょう。